家読フォーラム、盛況のうちに終了しました！

10 月 10 日（木）、県立図書館にて「家読フォーラム」を開催しました。約 180 名の方にご参加をいただきました。

阿刀田館長の御講演から始まり、パネルディスカッションに至るまで、本の魅力について、家読のよさについて、さまざまな方々からお話を頂きました。

□講演１　「わたしと本」　　阿刀田　高氏

阿刀田館長の御講演では、「わたしと本」をテーマに、読書をする能力（読書脳）は１３～１４歳までにつくられ、夢中で読書をした人は生涯読書をすると冒頭で話され、ご自身の本にまつわる思い出を軽妙洒脱な語り口でお話ししてくださいました。

落語全集に載っていた「ちはやふる」の思い出や世界遺産の「石見銀山」を野村胡堂の「銭形平次捕物帖」に登場する「石見銀山」の話と早合点してしまった思い出を引き合いに出され、「好きなもの、面白いものを読むことが一番」であること。また、読書好きになった理由として、幼い頃にされた「ことば遊び」をあげられました。「始は、女の無口ははじめだけ。これ、私の傑作。」と会場を笑わせた後、「ことばへの興味が本に近づけてくれたのではないかと思う」とエピソードを交えながらお話をしてくださいました。

□講演２　「家読で育まれるもの」　日向　俊子氏

続いて、山梨県立図書館の司書幹でいらっしゃる日向俊子氏の御講演がありました。「家読で育まれるもの」というテーマで、ご自身の子育ての頃にされた家読の様子を紹介してくださいました。そのご経験をとおしてお感じになったこととして、３つお話ししてくださいました。1 つ目は、「子どもは、本好きである」ということ。どう本と出会うかが大切だともお話ししていました。2 つ目は、「小さい頃に読み聞かせをしてもらった子は、（話を）聞く力も育つ」ということ。そして、「小さい頃に本を読む習慣が身に付いた子は、一度本から離れても、また本に戻る」ということ。

ご経験から得た知識をもとに、「家読のよさ」に触れたお話をいただきました。

□事例発表

10 分間の休憩後、山梨市立後屋敷小学校、笛吹市立浅川中学校、富士吉田市立図書館の方々による事例発表をしていただきました。

「ＰＴＡ研修部における親子巡回読書の取組み」

山梨市立後屋敷小学校　保護者　後屋敷　美絵氏

山梨市立後屋敷小学校の取組の特徴は、PTA 活動としての親子読書です。保護者と学校が協働で行っている家読として、取り組み方や他の家庭との交流の仕方など、とても参考になるものでした。なかでも、読書ノートをリレー方式で行っている点は、「家読」のキーワードでもある「共有」の場の提供ともいえます。

「浅川中学校の家族読書」

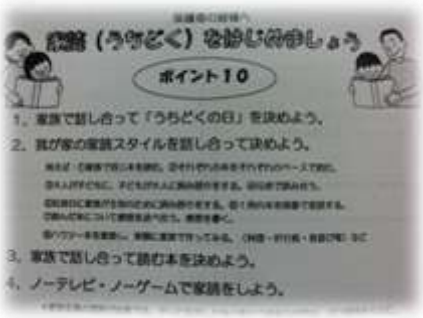
笛吹市立浅川中学校　藤原　正子氏

笛吹市立浅川中学校の取組の特徴は、なかなか読書の時間がとれない中学校の現場で、20 年以上も家庭読書が継続しているということです。本の選書の仕方や地域の小学校との連携の様子など、参考になる点がたくさんあったかと思います。また、家族と一緒に本を読むことを、中学生はどう捉えているのか、生の声をお話ししてくださり、家読が小さい子だけの取組ではないということを伝えてくれる、素敵な取組でした。

「図書館が取り組む家読について　～読書ノートの工夫～」

富士吉田市立図書館　渡辺　孝広氏

富士吉田市立図書館の取組の特徴は、家読の視点を取り入れた「読書ノート」を作成されたことです。家族が一緒に読書を楽しむ環境づくりの一歩として、家読の紹介ページと家読記録欄を設けたノートです。今年度の取組の状況も伝えてくださいましたが、「読書ノート」初年度ということもあり、工夫の余地がいろいろあるともお話ししてくださいました。今後、課題を改善され、さらに使いやすい「読書ノート」が紹介されることが期待される取組でした。



□パネルディスカッション　「家読でつながる　～それぞれができること～」

そして、最後に「家読でつながるもの」というテーマで、パネルディスカッションを行いました。コーディネーターとして、前総務課主幹の秋山宏子氏（山梨県立山梨高等学校校長）に、パネリストとして、日向司書幹と事例発表をしてくださった 4 名の方々に、ご自身のご経験から得たことをもとに話し合っていただきました。

＜コーディネーター＞　秋山　宏子氏（山梨県立山梨高等学校　校長）
＜パネリスト＞
＊日向　俊子氏　（山梨県立図書館　司書幹）
＊藤原　正子氏　（笛吹市立浅川中学校　司書）
＊渡辺　孝広氏　（富士吉田市立図書館　副主幹）
＊守岡　志のぶ氏（山梨市立後屋敷小学校　教諭）
＊後屋敷　美絵氏（山梨市立後屋敷小学校　PTA 研修部部長）

パネルディスカッションを通して、次のことが確認されました。

家読のよさとは、読書習慣や語彙力が身に付くなども言えるが、何より「1 冊の本をとおして、互いの価値観を交流する」ことと「親の愛情を感じられる」ことであると確認されました。

また、家読を推進していくために、何が課題となり、どんな手立てが必要なのかお話ししていただきました。それぞれのお立場からのお話の中には、今後の取組のヒントになるメッセージがたくさん詰まっていました。

最後に、コーディネーターの秋山先生から、次世代を担う子どもたちの心を豊かに育てていくためにも、子どもたちを取り巻く大人たちがつながることが大切であると、まとめのお話がありました。